

共に生きる

WITH LIFE

2016
ウィズライフ
第43号

テーマ
「車いす」を快適に！



私たちの「願い」

私たちは、公益に資する法人として、

- 「高齢者も障がいのある人も社会で共に暮らし、共に生きることがノーマルである」というノーマライゼーションの理念に基づき、
- 高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上を通して、
- すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与することを目的に取り組んでおります。

私たちのこの「願い」のため

尚一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう

心からお願い申し上げます。

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

理事長 土屋 公三

WITH LIFE 第43号 目次

- 4 ノーマライゼーション対談
活動しやすく、座り心地のよい車いす
日本医療大学教授 八田達夫さん
札幌アシストセンターマザー理事長 小谷晴子さん
- 10 ここが知りたい
自分に合う車いすを見つけて使いこなすポイントは？
- 12 明るいフクシ探検記
介護お助けロボット最前線
- 14 小中学生による「安全・快適アイデア」コンテスト
- 16 九州福祉視察研修レポート
- 18 「ノーマライゼーション住宅財団」活動紹介

2016年4月1日発行

発行人／土屋公三

発行所／公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団©

〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3ルーブル16 9F

TEL 011-613-7551 FAX 011-612-8431

URL <http://www.normalize.or.jp/>

【制作スタッフ】 ●編集協力／株式会社日本商工振興会

●編集総括／奥野 彰

●ライター／大藤紀美枝

●写真／酒井伸一

●レイアウト／高部友恵

●表紙イラスト／佐藤正人

●題字／須田照生

【印刷】株式会社須田製版



車いすラグビー――

四肢障がいのある人向けに
四十年前にカナダで考案された。

車いす競技で唯一、
コンタクトプレーが許される。

チーム「神威」の練習を拝見した。

車いすごとぶつかっていくタックルで
相手の攻撃だけでなく防御も、阻止。

スローフォワード、OK。

オフサイドルール、無し…。

本来のラグビーより遥かに自由。

アイスホッケーを思わせる激しさ。

相手身体に触れることと

車いす転倒につながるタックルは禁止。

パラリンピック公式競技ではあるが、

日本の競技人口は少ない。

大会出場に必要なメンバー確保も課題。

取材協力／車いすラグビーチーム「神威」(カムイ)（旭川市）
写真／加藤 博

活動しやすく、座り心地のよい車いすで どんどん出かけよう、生き生き暮らそう

車いすを必要とする人にとって、楽に座れること、体に無理がかからないこと、活動しやすいことは、極めて重要な要素です。それは通常のいすにも言えること。そこで、電動車いすを使用して活発に活動する小谷晴子さんに、適切な車いすの開発や支援方法などを研究する八田達夫さんのもとを訪ねていただき、車いすに求められる機能や個々に合った車いすの普及について話していただきました。

車いすによい姿勢で座ってもらいたい

——八田さんのご研究について教えてくださいいただけますか。

八田 はい。かねてより、車いす一般というよりも、「アクティブ・バランス・シートタイプ（頭頸部の位置の適切さを指標として、身体各部を部位ごとに支える方法で、結果として活動的で、均衡がとれ、目的にそった姿勢でいすに座ってもらうことができる）」という考え方に基づいて開発した車いす・いすについて研究しています。

アクティブ・バランス・シートタイプは、リハビリテーション・エンジニアの西村重男さん（北海道立心身障害者総合相談所職員）が二〇〇二年ごろ提唱した考え方で、もともと成人脳性まひの方を

対象に開発したものです。

私は西村さんと約三十年、共同研究開発を行ってこいで、いくつか製品化されています。手こぎ方式のものもあれば、脚こぎ方式の車いすもあります。

小谷 私の知っている脳性まひの方が、自宅で脚で動かすタイプの車いすを使っていますが、こちらに、よく似た車いすがあります。

八田 手作りバージョンとか、他の業者が作ったものとか、いろいろありますが、もしかししたら、ここにあるのと同じものかもしれませんね。私たちが一九八九年にテクノエイド協会から補助金をいただいて製品化した車いすは、アクティブ・バランス・シートタイプの原点と言えるもので、一番の特徴は、背面と座面に平ベルトを入れて骨盤の後ろと

日本医療大学保健医療学部
リハビリテーション学科

教授 八田 達夫さん
はった たつお

特定非営利活動法人
札幌アシストセンターマザー

理事長 小谷 晴子さん
こたに せいこ

坐骨の前方をしっかりと支える仕組みになっていることです。平ベルトの上に張りの強さを調整できる巻きシートで覆い、座面の坐骨結節部は巻きシートの張りを緩めています。

小谷 ということは、体が幾分沈む感じですか？

八田 はい。いすに長く座っていると、体重を支える坐骨結節が痛くなってきましたよね。

小谷 ええ。よくわかります。八田 シートの坐骨部に沈み込みがあると、坐骨結節にかかる負担が軽減されます。脳性まひの方は、車いすに乗っていると体が伸びてしまいがちですが、骨盤をしつかりホールドする仕組みを施していれば、伸びが防げます。

もう一つの特徴は、座とフレームがショックアブソーバーで連結され、座が前後に動くことです。ショックアブ





八田さんが開発に携わった数々の車いすに囲まれ
対談する八田さん（写真右）と小谷さん

ソーパーは衝撃も吸収しますが、運動のアシストも行います。伸筋の筋緊張を強めながら電動車いすに長時間乗って背中が痛いという脳性まひの方に、この車いすに座って前後運動していただいたところ、次第に凝りがほぐれ、緊張が和らいできました。今ここにこの脚駆動ですが、手で駆動するものもあります。

座圧を下げる機能を車いすそのものに

——小谷さんは、車いすについてどのようにお考えですか。

小谷 はい。私のように朝七時から夜九時まで車いすに乗っている者もいれば、車いすに乗っているよりもベッドで横になっている時間の方が長い方もいらっしゃいます。その人その人の身体状況や生活によってニーズは変わり、各人に合った車いすが必要である、ずっと考えてきました。

八田 なるほど。

小谷 万一、車いすで褥瘡（じよくそう床ずれ）ができたら大変です。頸椎（けいつい）などを損傷して感覚がまひしているのでしたら、褥瘡を作らない、もしくは悪化させないよう細心の注意を払わ

なくてはなりません。車いすのシーティングは極めて重要です。かつて勤務していた病院のリハビリ科にシーティングに熱心なお医者さんがいらして、「褥瘡を作らないためにはどのような車いすを作ったらいいか」という話し合いに、私も参加したことがあります。

八田 そうですか。我々が開発した車いすは背面形状に特徴があり、上体の体重をしっかりと支えます。高齢者や健常者に座ってもらって計測したところ、座面にかかる圧力が減少する結果が出ています。特に褥瘡につながる坐骨結節部とか、尾骨部分にかかる負担の減少が顕著です。

小谷 車いす自体が、座圧を減少する機能を備えているんですね。今まで私たちは、クッションをすごく気にしてきました。

八田 座面のクッションに意識が集中しがちですが、もう一つ注目しなければならぬのが、背もたれなんです。我々が開発に関与した新型の車いすの付属品（8ページ、写真C）で言いますと、この背もたれの部分が座圧の低下に役立つています。一例ですが、平面的な背もたれの車いす

で、体圧分散能力に優れているクッションを使用している方で座圧を計測させてもらったところ、我々の付属品を付けた車いすの方が圧力が低いという結果が出ています。

小谷 まあ、驚きです。

八田 我々もびっくりしました。もちろんクッションは大事ですが、みなさんに車いすの構造にも注目していただければと思います。

介護保険で貸与可能 適正な車いすを選ぶ

——小谷さんは、電動車いすをお使いですが、使い勝手はいかがですか。

小谷 実は、この車いす、作り直したばかりなんです。私

は現在、立つことができない状況なので、朝、ベッドから出て、夜、ベッドに就くまで車いすに乗っています。ですから、車いすが体に合っていないければ、姿勢によって痛みが出たり、褥瘡ができたりするんです。

また、体幹に障がいがあるため、一般の車いすに座るのは無理があります。以前から座位を保つため用具を使っていました。今回はそれがぴったりフィットしていることで、体が横に倒れるといったことがなくなりました。ヘッドレストの位置も調整でき快適です。

八田先生は、体幹を支えることに関して、どのようにお考えですか。

八田達夫さんの専門分野

発達障害作業療法学、福祉工学。障がい児・者の機能を改善する普遍的要素の探求を通して、適切な機器開発や支援方法を研究している。研究テーマは、アクティブ・バランス・シーティング概念に基づいた車いすシーティング。

特定非営利活動法人 札幌アシストセンターマザー

札幌市東区北27条東18丁目4-14
TEL.011-784-5235
FAX.011-784-5236

札幌市内に3事業所があり、介護保険法事業、障害者総合支援法事業、札幌市地域生活支援事業を行い、障がい者向けバリアフリー賃貸住宅（3棟）を運営している。



八田 達夫 (はった・たつお)

北海道大学教育学部卒。知的障がい者施設勤務を経て、北海道大学医療技術短期大学部で学び作業療法士資格取得。2002年広島大学医学部教授、04年北海道大学医学部保健学科教授、08年北海道大学大学院保健科学研究院教授。16年4月から日本医療大学保健医療学部リハビリテーション学科教授。博士(医学)。札幌市在住。

アクティブ・バランス・シーティングを 多くの人に「実感」していただきたいです。

八田 体幹を支えることは、研究開発するに当たって常に考えてきたことで、我々が開発に関与した代表的な車いすが『座王』シリーズ(写真A)と『RX_ABS Lo』(写真B)です。『座王』の場合、骨盤支持ベルト、下部胸部支持ベルト、胸部支持ベルトからなる3Dバックサポート機能により、左右非対称姿勢の方にもしっかりと対応します。

通常の車いすに座るときに体が斜めになってしまっていたのですが、『座王』に座っていただくと、体のねじれが解消するのがよくわかりました。小谷 そうですか。私は介護保険サービスや障害福祉サービスに携わっていることもあり切実に思うのですが、高齢者の場合、介護保険を使って車いすを入手しようとすれば、貸与というかたちになります。その場合、スーパーやデパートに置いてあるよう

な標準的な車いすを借りて使っている方が多く見受けられます。制度的なものを活用して、今ご説明いただいた車いすのような自分の体に合う車いすを使うことはできるのでしょうか。八田 『座王』も『RX_ABS Lo』も介護保険を利用して貸与可能なんです。まだ、広く知られるに至っていませんが、『座王』や『RX_ABS Lo』を持つレンタル業者さんが少

しずつ増えてきています。小谷 どんどん広まっていくとよいですね。八田 車いすを借りようとすると、これら車いすと一般的なものと比べて、どこに差があるのか、なかなかわからないというのが実情で、きちんと説明してくださる業者さんが増えることを期待しています。

全額自費で購入というかたちになり、負担が大きくなるざるを得ません。——購入するとなると、一台、おいくらぐらいでしょう。八田 価格は機種により異なります。アクティブ・バランス・シーティング仕様でスタンダードな自走用車いすですと定価十三万円台からと

また、施設に入所している方の場合、介護保険でのレンタル利用ができませんから、小谷 思ったより安いですね。標準的な車いすは、通販



写真A(左):『座王 スタンダード NAH-521A(介護用)』(日進医療機器)
写真B:『RX_ABS Lo(自走用)』(ミキ)



小谷 晴子 (こたに・せいこ)

長期間入院生活を送り、退院後、札幌クラーク病院に15年間勤務し作業療法士の助手を務める。2002年NPO法人札幌アシストセンターマザーを設立し理事長に。相談支援事業所管理者、相談支援専門員。15年12月に開設した北海道ユニバーサル観光センター・札幌のセンター長を務める。札幌市在住。

いすや車いすの使い勝手や座り心地がよいとその気、やる気、元気が出てきます。

で一万円台から売っています
が、私の車いすは電動でオー
ダーということもあり、かな
り金額がかさみます。でも、
障害者総合支援法で補装具と
認められ、利用者負担の限度
額があるので、それ以上負担
しないで済みます。

八田 車いす購入に当たっ
て、そうした制度が適用にな
れば、自己負担が軽減されま
すが、高齢という理由での適
用は難しいですね。

小谷 認知症があつて転倒し

て車いすに乗っている方がい
らっしゃいますが、認知症の
方は、座位がだんだん崩れて
くるようですね。滑り止め
マットを敷くなど、いろんな
工夫しているのを見たことが
あります。

八田 滑り止めにゴム製のもの
を敷くと、滑らないだけに皮膚
への負担が大きくなるんです
よ。そうしたことに留意し
ていただきたいと思います。

小谷 こうしてお話するほ
どに、障がいにとどまらず、

加齢に伴う身体状況の変化に
合った車いすが絶対必要であ
るとの思いが強まります。
八田 車いすにも選択肢がた
くさんあることを周知しても
らいたいですし、施設でも更新
の際、適正な車いすを選んでい
ただきたいと切に思います。

車いすを活かして 日常生活を安全・快適に

——いすも車いすも暮らしに
欠かせないものです。区別し

ない考え方はできないもので
しょうか。

八田 同じ「いす」でも、い
す業界と車いす業界、テリト
リーは分かれていきますね。

小谷 車いすは、補装具に区
分されていますからね。

八田 車いすは座る上でも、
ADL(日常生活動作※1)

を行うときでも、すごく大事
な道具です。ご飯をきちんと
食べて、身なりを整えて、体
操などの運動をして、毎日の
生活活動を丁寧にしつかり

やっていると、仕事がす
るときも趣味など好きなこと
に興じるときもベースになる
と思います。車いすは、さま
ざまな活動を助ける黒子のよ
うなもの。あくまでも活動す
る人が主役です。

小谷 病院で作業療法士の助
手をしていたので、よくわか
ります。

八田 国際的なシーティング
の学会に行きますと、参加者
は理学療法士より作業療法士
の方の多いんですよ。

小谷 シーティングに関し、
日本では理学療法士が担って
いますよね。

八田 日本では、車いすを移
動道具という概念で捉え、そ
れは歩行だから理学療法とし

て定着したと思われま
す。シーティングにも車いすに
関することにも作業療法士が積
極的に関わっていたきたい
です。貧弱な車いすで姿勢を
崩した状態でご飯を食べてい
るようでは、ADLの訓練と
は言えません。

小谷 病院を退職して十数年
経ちますが、いろいろ思い出
してきました。当時、作業療
法の際、姿勢というものを意
識していて、クッションを入
れたりバスタオルを利用する
などして体位を整えていまし
た。作業療法においてもシー
ティングが大事ですね。水を
飲み込むにしても、頭を下げ
ていたら飲み込みづらいで
すから…。

八田 我々の研究では「嚥下
に関わる筋肉は姿勢により働
きが有意に違う」という実験
結果を得ています。頭が前に
出て顎が上がる姿勢では、頭
が起きて顎が下がっていると
きに比べ、飲み込みに要する
時間が長いことから、誤嚥の
リスクが増すと推測されます。

※1 ADL(日常生活動作)…
食事や排せつ、移動、入浴など、
日常生活をおくる上での基本的な
行動や行為。

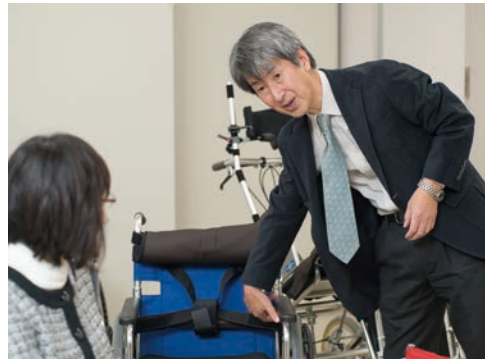
小谷 私どもの通所介護・生活介護サービスでは、飲み込みがうまくいかず誤嚥しやすい方には、食事のときに言語聴覚士が付き添い、姿勢などに配慮しながら食事していただいています。

また、日中活動で手芸、麻雀、体操など各種レクリエーションを行っています。その方に合った車いす・車いすがあるとモチベーションが上がります。ADLの向上にもつながると思います。ケアにもリハビリにも、作業療法士や言語聴覚士など、さまざまな専門家が関わる必要がありますね。

車いすづくりの知恵を事務用いすづくりにも

——八田さんが開発に関わったABS骨盤サポートベルトセット(※2)が製品化の運びだそうですね。

八田 はい。今年四月に発売予定です。今、ここにあるのは試作バージョンで(写真C)、製品イメージは少し異なります。このベルトは、標準型車いすに取り付けて体幹を支えることを考えて開発したもので、骨盤サポート、胸



郭下部サポートと胸郭サポート(クロスベルトとして一体化)、この三つが基本となっています。ベルトの張りを調節することで、体の変形にも柔軟に対応することができます。坐骨結節前方をサポートする機能を持つクッションもセットになります。

小谷 なるほど…。私は働いていますから、職場ではデスクの上のパソコンに向かっていきます。やや前傾姿勢をとり、体幹を腕で支えてキーボードをたく感じなので、長時間続くと腕がつかなくなってくるんですよね。そうしたこともあって、日常生活や仕事でのいろんな場面を想定し、柔軟に対応できる車いすができればいいとずっと思っていました。

八田 このベルトセットは、胸郭部・胸郭下部クロスベルトを強めに張ると、前側に体が向くようになる工夫をしていますから、作業を続けるときなどは、そうするとよいと思います。

小谷 障がいがあっても若い方ですと、就労する方が多くなってきたと思います。作業をするときは荷重する部分が変わってくるので、このベルトセットの柔軟性は、とても喜ばれると思います。

——八田さんと西村さんは、オフィスチェアの開発にも関わっておられますね。

八田 はい。我々が開発に関与した『Pulse(パルス)』シリーズは、姿勢安定メカニズムの研究成果をオフィスチェアに生かしたものです。背もたれのリクライニング機能を備え、長時間にわたる着座業務の負担を軽減します。今、私が座っているこのいすもパルス(写真D)です。研究室では、背もたれがメッシュタイ

プのパルスを愛用しています。が、快適ですよ。

——車いすづくりのノウハウをいすづくりにも役立てたことは、オーファン・プロダクツのユニバーサルデザイン化と言えますね。

八田 はい。一つの実践と言えると思います。

小谷 オーファン・プロダクツとは…。

八田 直訳するとオーファンは「みなしご」、プロダクツは「製品」となります。重い障がいがあったり、まれな病



写真C: 指さしているのが『ABS骨盤サポートベルトセット』(試作品)。

気の方は人数が少ないです。ね。そういう方々が必要とする薬や道具などを、「オーファン・プロダクツ」と呼んでいます。オーファン・プロダクツは、重度の障がいがある方々に直接役立つのはもちろん、その過程で開発された知見や技術は、より障がいの軽い方々や障がいのない方々にも役立つと考えます。つまり少数者のオーファンへの投資は、広く多くの人々の利益につながるということですね。

小谷 なるほど。

八田 我々の技術は、もともとは車いすに座るのが難しい方々が、座れるようになるにはどうしたらよいか考えて開発したものです。座れない方々を座らせることのできる技術なら、座れる方々においては、もっと楽に座らせることができるのではないかと考え、オフィス用のいすの開発に取り組みしました。今もいすの開発を進めています。

※2 ABS(アクティブ・バランス・シーティング)骨盤サポートベルトセット…ノーステック財団の補助金を得て、八田さん、西村重男さん、岸上博俊さんが、特殊衣料、北進医療機器と共同開発したものです。詳しくは10ページ参照。

「我々は、重度障がい者であるオーファンから出発するところが、真のユニバーサルデザインにつながると思います。そして、重度の障がいのある方々から学んだことを、多くの方々のために役立てることも使命と考えています。」

小谷 私のように長時間、車いすを必要とする者がいるように、長時間、いすに座ってお仕事をなさっている方は大勢いらっしゃると思います。問題点や悩みは、共通するところがあると、素人ながら思います。

札幌アシストセンターマザーの事業所でも、ケアマネジャーや相談支援専門員などは、デスクに向かっての作業が多く、パソコン前にクッションを入れるなど、それぞれに工夫しています。今、八田先生が座っているように、肘掛け、ヘッドレスト付きのいすに替えた

ら、心地よくて居眠りをしてしまうかもしれません(笑)。

よいシステムと技術で バリアフリーを実現

——小谷さんは、JR札幌駅に昨年十二月にオープンした「北海道ユニバーサル観光センター・札幌」のセンター長を務めていらっしゃいます。同センターでは車いすのレンタルも行っていますね。

小谷 はい。障がいのある方や高齢の方が旅行をする際に役立つバリアフリー情報を提供するとともに、車いすやベビーカーのレンタル(有料)を行っています。高齢の方や脚をけがしている方が「歩けるけれど長時間は無理なので車いすを貸してください」というケースが多いです。

八田 観光客などが、札幌駅

で気軽に車いすを借りることができるわけですね。

小谷 そうです。かねてより「北海道各地にバリアフリーツアードeskを」と運動し、「まずは札幌駅に」となったのですが、資金不足のため新聞やテレビの報道を通じて車いすやベビーカーの寄付を募りました。ですから形もデザインもさまざま。車いすに關しては、介護用、自走用共に数を増やし、利用される方が確実に選べる状態にもっていきたいです。

将来的には、道内各所にバリアフリーツアードeskができ、帰途に就く空港などに車いすなりベビーカーを置いていけるようなシステムを作り上げたいと考えています。

八田 早くそうなるとよいですね。

小谷 頑張ります。車いすには、特に持ち運びという点において「軽さ」が求められます。車いすが重いと、介助する方やタクシートの運転手さんが大変なんです。

八田 軽くて、車にも積みやすく、かつ座って楽な車いすであることが基本ですよ。

小谷 はい。八田先生のお話を伺っていると、それは夢で

はなく、実現できるのではと思います。

八田 システムと技術的なものがうまく組み合わせられていくとよいですね。オーファン・プロダクツの話同様、観光のユニバーサルデザイン化にしっかりと取り組むことが、あらゆる人に快適なまちづくりにつながり、それによってたくさんの方が観光に訪れるようになるのではないのでしょうか。

小谷 「旅は最高のリハビリ」と言われます。私は病院に勤めていたときは患者さんに、今は各サービスの利用者さんに、「車いすでも買い物に行けるし、外食できるし、旅行にだって行ける」と言い続けています。その気になって実践すると、みなさん表情が生き生きしてくるんです。外に出て人と関わることは、生きる上で欠かせないことです。

八田 楽しむことで、その人のいろんな部分によい

影響が出てくるということですね。

小谷 出かけやすい車いすがあり、環境も整備されていけば、よりよい社会になっていくと思います。ますますのご活躍を期待しておりますので、よろしく願っています。

八田 こちらこそ、よろしく願っています。
(二〇一六年一月七日
北海道大学大学院保健科学研究
院にて)

北海道ユニバーサル観光センター・札幌

札幌市北区北6条西4丁目 JR札幌駅西コンコース北口
北海道さっぽろ「食と観光」情報館内
TEL.070-5289-8631 営業時間/9:30~17:30(年中無休)

◎情報提供および案内:バリアフリー対応の観光地、バリアフリールームのある宿泊施設、福祉タクシー、レンタカー、授乳室、車いす対応トイレ、オストメイト対応トイレ、透析旅行、入浴介助など。

◎レンタル:車いす、ベビーカーなど。(有料)

※北海道ユニバーサル観光センター・札幌に関し、小誌『ウィズライフ第42号』7ページ(札幌バリアフリーツアードeskと記載)でも紹介しています。



写真D:高性能オフィスチェア『Pulse(パルス)』シリーズ(内田洋行)のクロスバックタイプ。



自分に合う車いすを見つけて 使いこなすポイントとは？

病気、障がい、あるいは高齢のため歩行に困難をきたしたときなど、車いすは日常生活に欠かせないものとなります。車いすを必要とするとき、身体状況や生活環境にマッチするものを見つけて、上手に使いこなすために、車いすに関する研究開発を続ける八田達夫さんにアドバイスをいただきました。



日本医療大学保健医療学部
リハビリテーション学科
はった たつお
教授 八田 達夫さん

体や生活状況を把握 姿勢が保てる車いすを

「車いすが必要」と思ったとき、どこに相談したらよいですか。

八田 入院中でしたら理学療法士や作業療法士、介護保険を利用してレンタルをお考えでしたらケアマネジャーに相談したらよいでしょう。しかし、医療や福祉に携わる方で車いすの機能や性能に精通した方は、まだまだ少ないようです。

——医療や福祉の関係者はもちろん、各人が情報を集め、車いすに求められる機能を知っておく必要がありますね。
八田 ぜひ、そうしていただきたいです。その前段として、人間の体について理解を深める必要があります。

——特にどこに留意すべきですか。

八田 高齢になると、どうしても頭が体の前に出る「頭部前方位姿勢」になりがちです。成人の頭の重さは約五キロあり、それが首の軸から前に出ると頸椎や首の筋肉に負担がかかります。頭痛や肩凝りの原因となります。

背中が丸くなって上半身がつぶれてきて、そこに片まひなどの症状があると、左あるいは右に体が倒れ、側彎などいような問題を引き起こします。そうならないためにも、「頭が起きた姿勢」を保つことができる支えは極めて重要です。また、頭が重くうつむき加減だと、刺激が察知できない、話しかけられても言葉が聞き取れない、人の顔がうまく見られないといったことにつながります。

——つまり、車いすには頭が起きた姿勢を保つ機能が求められます。

八田 はい。しかし、筋力が弱い方々においては、ご自身で姿勢を保つのは容易なことではありません。頭を起こすように座ると首は楽ですが、お尻が前方にずれてきて、上半身も崩れてきます。そうなったとき、ご自身で体位を立て直すことができません。

——介助者の手を借りることになります。また、ずれの方が坐骨結節部や尾骨部分にかかるようにだと褥瘡の心配が出てきます。
したがって、頭を起こした姿勢を保つために車いすに求

められる機能は、背面の骨盤サポート、胸郭下部サポートと胸郭サポート、この三つが基本になります。座圧を軽減し褥瘡を防止するために、座面の坐骨結節前方部サポート機能を持つ高性能のクッションも必要です。

アクティブ・バランス・シーティングに注目

——車いすに求められる三つの基本機能を備えた車いすを教えてください。

八田 リハビリテーション・エンジニアの西村重男さん(本号4ページ参照)と共同開発に携わった代表的な車いすが、『座王』シリーズ(日進医療器)とアクティブ・バランス・シーティング仕様の『RX』シリーズ(ミキ)です。活動

的な生活を実現するため、車いすに座った状態で、その人が持っている身体機能を発揮できるよう、適正な姿勢を保つよう工夫しています。

車いすを移動用の道具と捉えるか、生活道具として捉え



『RX ABS Lo (自走用)』の背面二段カバの下の仕組み。



『座王』スタンダード NAH-521A (介護用)』



標準的な車いすで、高齢者にありがちな背中が丸くなり頭部が前に押されている姿勢を再現。



標準的な車いすにABS骨盤サポートベルトセットを装着し、よい姿勢で車いすに座っているところ。

●ABS骨盤サポートベルトセット（試作品）



ABS骨盤サポートベルトセットのパーツ。左からサイド金具、骨盤部エラスティックウェービングベルト、胸郭部・胸郭下部クロスベルト（2本）、輪状ベルト、2段カバー、座クッション。



- ①2本のクロスさせた胸郭部・胸郭下部クロスベルトと骨盤部エラスティックウェービングベルトを輪状ベルトで結ぶ。
- ②アームレストのフレームに取り付けるサイド金具のねじ間隔は、標準的な車いすのねじ間隔に合わせて19cmに設定してある。



右／標準的な車いすにABS骨盤サポートベルトセット（試作品）を取り付けたところ。左／ABS骨盤サポートベルトセットに2段カバーと座クッションをセットし完成。

るかで、重要視する機能も変わってきます。もちろん我々は、車いすは生活道具と捉えています。

——アクティブ・バランス・シーティング仕様のようには、生活道具として必要な機能を車いすに備えるのは難しいことですか。

八田 そんなことはありません。材料が特殊なわけでもありませんし、特別、部品が増えるわけでもありません。要はその組み方なんです。

——標準的な車いすでも、車

いすに求められる三つの基本機能を備えることができますか。

八田 はい。ABS（アクティブ・バランス・シーティング）骨盤サポートベルトセット（二〇一六年四月製品化）は、そのために開発されたものです。

試作品で説明しますと、骨盤部エラスティックウェービングベルトで骨盤部を支えます。そして胸郭部・胸郭下部クロスベルトのクロス下部で胸郭下部から胸郭部、クロス上部で頭頸部と胸郭部を支えます。これはベルトに胸郭を

乗せ、それを下から支えるアイデアで、胸郭部の前押しと頸部の前屈を解消して胸部を開いて腹部の圧迫を軽減するとともに、座圧を減少させます。

さらに、ベルトの張り具合が調節できるので、ある程度体に変形があっても体が起きるよう対応することができます。

ADLの向上は最適な車いすから

——その人に合った車いす選

びの重要性についてお話しただけですか。

八田 医療や福祉、そして世間一般においても、車いすがリハビリテーションほど重要視されていない現状を、とても残念に思います。

リハビリテーションの機能訓練の目的は、認知機能と身体機能の向上にあります。例えば高齢になつて筋力増強に励んでも、若い人並みの回復は難しいでしょう。このような場合、訓練に励むというよりも、適切な生活道具を

選び、その援助機能を活用する中で筋力の維持を図る方が、無理がありません。つまり、どう体を支えるかで体の使い方はより合理的になりますし、ADL（日常生活動作）の向上が図れると思います。

重要な役割を果たす生活道具の一つが、車いすです。お一人お一人に最適な車いすを選び、残存機能を生かして元気に活動し、充実した毎日を送っていただきたいと思っています。

ロボットスーツ

HAL[®] by サイバーダイナミクス

日本発

介護支援

しくみ

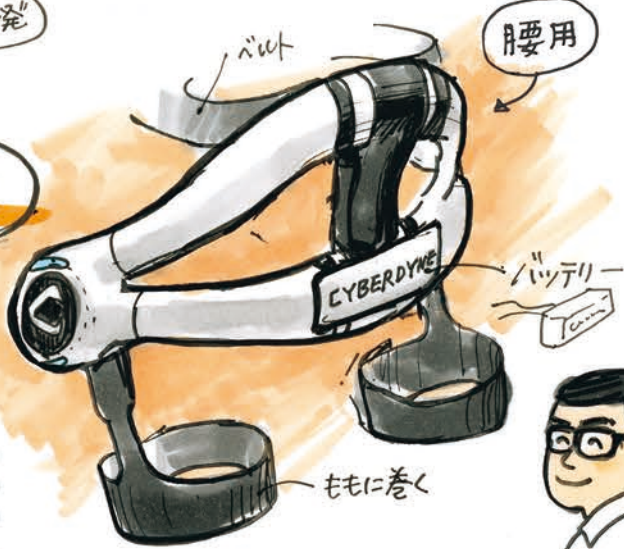
④正しい動きを学習

脳

① 動かし信号

② 信号

③ 動かす



★介護の現場では、
職員の無理な姿勢や荷重の
腰痛が大問題。

装着すると、重い物を持ち上げたり
介助したり、中腰作業が
楽になるようになる!

60kgの物を20kgの
感覚で持ち上げられる?
(か持ちになる訳ではありません)



担当:
遠藤さん
「まだ課題は
ありますが、
腰痛の予防
には
可能性
大です!」

ちがうよ... (@ライフアスティー白羽 新設)

明るいフクシ 探検記

おじゃま
します!

文・イラスト
伊藤千織



介護お助けロボット最前線

ロボットがやってくる

「イラッシャイマセ」と店先でロボット
が出迎えてくれる光景は、もはやSF映
画の世界ではなく、近所の話になった。
政府は2015年を「ロボット革命元年」
とし、成長戦略の一環として、日本が技
術力を誇るロボット産業の積極的な育成
に乗り出した。

その目玉の一つが「介護ロボット」。

背景には、世界に先がけて超高齢社会
を迎えた日本の、医療・介護現場におけ
る深刻な人材不足への危機感がある。介
護職員の離職には腰痛に代表される介護
労働の苦勞が潜んでいるし、過疎化した
僻地の病院では、受付をしてくれる人材
もない。

そうした医療福祉や介護の様々な問題
の解決のためにロボットなどの先端技術
を活用しようと、国内の企業や大学発ベン
チャーが実用化に取り組み、続々と商
品化を進めている。

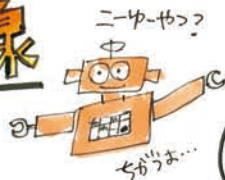
介護ロボットへの期待

介護ロボットの範囲は広く、目的や使
用場所によって機能や形状も多岐に渡る
が、大きくは三つ。

移乗介助などの介護者の負担を軽減し
たり、寝たきりの高齢者の排泄を助ける
等の【介護支援型】、リハビリや自力移動
高齢者の外出を補助する【自立支援型】、
心の癒しや認知症高齢者の見守りを行う

介護お助け! ロボット最前線

介護の未来は
ロボットたちと共にある?!



リハビリ・ 自立支援

★リハビリでは、ロボットが「歩かせる」のではなく、正しい動きを「補助し」、それを脳が覚えることで回復に効果あり。

コミュニケーション

身長 58cm 体重 5.4kg

★相手の顔を認識して

言葉を聞き取って
会話が可能。
受付や高齢者施設、
小児科病棟などで
活躍が期待されます。

人型ロボット

NAO® by アルデバラン社

フランス生まれ

★小児病棟にて

注射の痛さも忘れちゃう!



ダンス、超上手!!

★子供はすぐ仲よくなる!(わりと)

寺本さん

難病で、3年前には座ることもできず、今は立ち上がりまでに回復!
「将来性のある技術です!」

(@東苗穂病院 リハビリ科)

★つぶらなお目々が引かれます愛らしさ!

センサー

人気のロボット Pepperは NAOくんの兄弟なのよ!



(@東栄病院)

などの「コミュニケーション・セキュリティ型」だ。

いま注目されているのが、筋力のアシスト機能を持つ装着型のロボットスーツ。介護者の腰をサポートしたり、脳梗塞の後遺症や神経系疾患などの肢体のリハビリに効果を発揮している。また、動物型や人型ロボットには、認知症のセラピー効果や会話など精神的な効果が期待される。

発展途上の分野なだけに、使い勝手や経済的負担、保険適用、心理的不安など、まだまだ課題も多い。一方、ロボットを導入した施設では介護職の求人に応募が増えたり職員のモチベーションがアップするなど思わぬ効果も出ている。

ロボットとの共存社会へ

介護とロボット。この響きに、非人間的な冷たいイメージと違和感を持つ人も多いだろう。人間の仕事を奪われてしまふのではと、危ぶむものももっとも。

でも、心配はご無用。最後はやっぱり生身の人間力。ロボットは脅威ではなく、むしろ人間の足りないところを助けてくれる友だちのような存在だ。

いずれにせよ、これからの社会を生き抜いて行くために、ロボットたちと手を携えて生きて行く未来が確実にやって来ることだけは間違いない。そしてそれは意外と悪くない。



素晴らしいアイデアを広く市民に知っていただくため、本コンテストの入賞作品は、例年、さっぽろ地下街オーロラタウンの展示コーナーに一定期間展示し紹介しています。

(2016.1.9撮影)

当財団では、毎年、小・中学生を対象に「安全・快適アイデア」コンテストを実施しています。今回は道内十八校（小学校九校、中学校九校）、九百四十九作品の応募があり、小学生・中学生の部それぞれ最優秀賞一点、優秀賞三点、優良賞五点、佳作十一点、奨励賞十点が決定しましたので、ご紹介いたします。

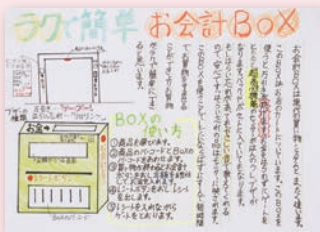
(記載の学校・学年は応募時現在)

第20回 小中学生による 「安全・快適アイデア」 コンテスト

入賞者発表

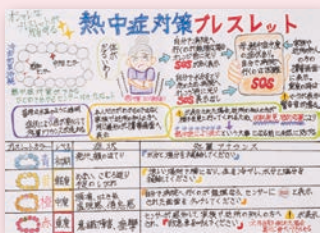
小学生の部

●優秀賞[3作品]



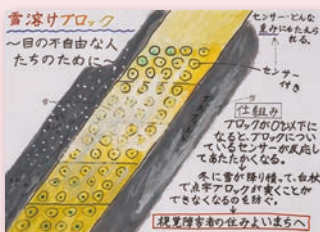
「ラクで簡単 お会計BOX」

札幌市立北野小学校6年
栗野ひかるさん



「熱中症対策ブレスレット」

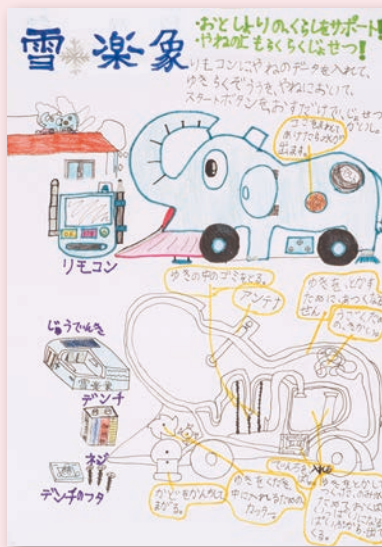
札幌市立北野小学校6年
佐竹令菜さん



「雪溶けブロック」

札幌市立栄南小学校6年
佐竹柊哉さん

●最優秀賞



「雪楽象」
札幌市立定山溪小学校2年
多田樟太郎さん

●優良賞[5作品]



札幌市立平岡南小学校5年
中津山さきさん



札幌市立北野小学校6年
早田愛未さん



北斗市立浜分小学校6年
平尾珠美さん



北斗市立浜分小学校6年
藤川泰地さん



北斗市立浜分小学校6年
松川奈央さん

■佳作 [10作品]

●江別市立江別第三小学校4年 鳥井美里 ●札幌市立平岡南小学校5年 大島進之介、中村壮汰、矢津田明莉 ●札幌市立北野小学校6年 大坪咲葉、尾関楓花 ●札幌市立栄南小学校6年 加藤桃子 ●北斗市立浜分小学校6年 池田琴音、小田さつき、佐藤乃愛

■奨励賞 [10作品]

●札幌市立苗穂小学校3年 越前さくら ●釧路市立清明小学校3年 志田優羽 ●江別市立江別第三小学校4年 加藤真子、櫻田健太 ●札幌市立東白石小学校5年 小山内陽菜、高橋麻宏 ●札幌市立平岡南小学校5年 塚田健太、山本琉希 ●札幌市立北野小学校6年 工藤愛由 ●札幌市立栄南小学校6年 関原龍誠 (敬称略・順不同)

講評

●審査委員長
北海道デザイン協議会

名誉会長 大阪 克彦

今回は千点近い応募があり、現代っ子の科学的知識の豊富さに驚かされました。生活の中で気になることを解決するため、その知識と優しさや思いやりをもって、安心・安全・便利につながる作品に仕上げてください。とを、大変うれしく思います。

アイデア説明の絵や文から、思いを伝えようと努力したことがよくわかり、「これがあったらいいなあ」と思う作品が数多く、順位を決めるのが難しい審査会でした。小学生の部最優秀作品は、お年寄りの屋根の雪下ろしに配慮した、雪国ならではのグッズアイデアです。また、中学生の部最優秀作品は、重い荷物でも楽に持つことができるアイデアが、本コンテストの趣旨にピッタリのものでした。

審査委員

北海道科学大学

名誉教授 菊地 弘明

一級建築士事務所西代企画設計

代表 西代 明子

北海道社会福祉協議会

事務局長 藤田 裕行

札幌市社会福祉協議会

常務理事 宮川 学

北海道デザイン研究所

所長 佐藤 進

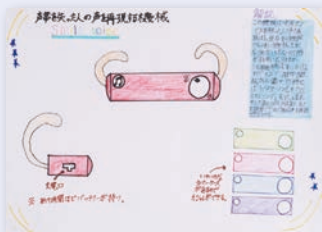
北海道新聞社

編集部 生活部記者 根本 剛

(敬称略・順不同)

中学生の部

●優秀賞 [3作品]



「Smile Voice」

釧路町立富原中学校2年 阿部奏大さん



「透ける冷蔵庫」

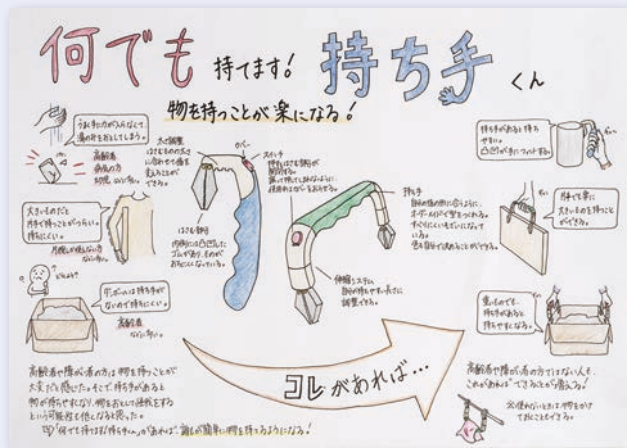
ニセコ町立ニセコ中学校2年 平松 大さん



「ジャスト物干し」

北海道教育大学附属 旭川中学校3年 松山未佳さん

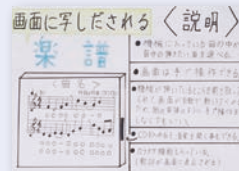
●最優秀賞



「何でも持てます! 持ち手くん」

釧路町立富原中学校2年 金子千裕さん

●優良賞 [5作品]



ニセコ町立ニセコ中学校 2年 齊藤優花さん



北海道教育大学附属 旭川中学校3年 東 佳世さん



北海道教育大学附属 旭川中学校3年 池田汐季さん



北海道教育大学附属 旭川中学校3年 篠原更紗さん



北海道教育大学附属 旭川中学校3年 徳光雪菜さん

■佳作 [10作品]

●厚岸町立真龍中学校1年 岩田理希 ●釧路町立富原中学校2年 小田嶋千絢、川上 麟、高村 芽、藤井樹奈 ●ニセコ町立ニセコ中学校2年 佐々木 花 ●砂川市立石山中学校3年 江良美桜 ●北海道教育大学附属旭川中学校3年 奥野未侑、須藤紗彩、早川明花

■奨励賞 [10作品]

●旭川市立神居東中学校1年 三上航平 ●厚岸町立真龍中学校1年 宮本渚月 ●札幌市立新琴似中学校1年 齊藤優奈 ●旭川市立愛宕中学校2年 瀧沢友那 ●釧路町立富原中学校2年 有岡珠里 ●ニセコ町立ニセコ中学校2年 池田康太 ●厚岸町立真龍中学校3年 武藤陵汰 ●砂川市立石山中学校3年 小森虹那、玉造李名 ●壮瞥町立壮瞥中学校3年 大西まなみ (敬称略・順不同)

※ここに掲載のアイデアの無断使用を禁じます。お問い合わせは当発行所 (P2)までお願いします。

九州福祉視察研修レポート

福祉住宅建築助成事例集「ふれあい」担当 西村裕広

昨年11月、当財団の主要活動の一環として「ノーマライゼーション福祉視察研修」を実施しました。今回の訪問地は、2006年以来となる九州です。訪問させていただいた施設の多くは北海道で見られない取組みを行っており、非常に内容の濃い視察となりました。

見学を断られる施設が増加傾向に

今回の九州での研修は、昨年11月19～23日までの5日間、8名の各界専門家・有識者の参加をもって実施されました。訪問させていただいた施設は合計4カ所です。

実は今回の研修、出発間近まで訪問先やスケジュールが確定せず、事務局ではかなり頭を悩ませました。リサーチし、候補として選んだ施設に見学の依頼をしたところ、断られてしまうケースが少なくなかったのです。当財団ではこれまでたくさんの方に施設に訪問していただきましたが、事前の見学依頼を断られることなど以前はほとんどありませんでした。それがここ数年増えてきたようなのです。障がい者や高齢者が入居している施設などの場合、見知らぬ人たちが生活

空間に出入りすることで、利用者さんたちのストレスになることを施設が懸念している、という理由が多いようです。

しかし事務局の苦労の甲斐あって、今回は貴重な取組みを行っている施設ばかりを見学することができ、大変有意義な研修となりました。

企業とタッグを組みながら障がい者の自立を後押し

まず訪問したのは、大分県別府市にある社会福祉法人「太陽の家」です。整形外科の医師だった故・中村裕先生により、1965年に創立されました。障がい者の働く場づくりに取り組み、これまで多くの人の社会復帰を支援している、全国でもよく知られている施設です。

有名なのは施設だけではありません。リハビリの一環と

して、そして障がい者の生甲斐になりえるものとして、中村先生は以前から障がい者スポーツの普及に取り組んできました。その結果、国内最大級の大会として知られる「大分国際車いすマラソン」が発



左／「太陽の家」敷地内の、施設と企業が共同出資した会社が入る建物。 右／近隣のスーパーのレジカウンターは、車いすの人のために独自に工夫。

足したのです。この大会は海外のアスリートにも広く知られる世界的な車いすマラソンの大会として定着しています。

中村先生が当初から掲げ、現在もこの施設が理念としている言葉はNo Charity, but a Chance。つまり障がい者には「慈愛ではなく、非障がい者と同等的な機会を」ということです。60年代からすでにこうした理念を掲げていた施設は稀有なのではないでしょうか。

理念だけではありません。こちらの施設では大手企業と共に出資をし、障がい者が就労できる子会社を8社設立しています。それらの企業の従業員は障がい者がメインです。福祉への理解がある企業と協力し、まさに就労機会の均等を実現しているわけです。

施設の近隣には、大分県内で小売店を展開している企業と協力して運営しているスーパーもあります。障がい者が買いたい物に不自由しないだけでなく、障がい者でもパート勤務などができるよう、レジカウンターを低くするなど店のあちこちに工夫を凝らしており「障がい者が就労できる日本初のスーパー」として知られています。同じく近隣にあ

る銀行も、障がい者が利用しやすい環境づくりを行っています。「こうした取組みは、この地域じゃなくてもできるはず」という感想が、私たち視察メンバーからも出ました。

町のひとつのエリアで障がい者が生き生きと自立生活している。「太陽の家」に訪問して受けた強い印象でした。

利用者さんのほとんどが重複障がいを抱える施設

次に訪問したのは、熊本の「慈愛園・熊本ライトハウス・のぞみ園」です。

社会福祉法人慈愛園の歴史は古く、創立は大正8年（1919）です。アメリカのモード・パウラス宣教師が、北米一致ルーテル教会婦人会の寄付を基礎にして、極貧の子ども、婦人、老人のために設立したホームが始まりです。



「慈愛園・熊本ライトハウス・のぞみ園」

現在は熊本県内に高齢者施設、保育園、児童福祉施設、障がい者施設、在宅サービスなどを幅広く展開しています。

私たちが訪問した「のぞみ園」は、重度の視覚障がいや聴覚障がいと、知的障がいの併せ持つ2重・3重障がいの人たちが利用する盲重複障がい者支援施設です。日常生活を自分の力でこなせる人は、ほぼおりません。利用者さんには様々な訓練を行っています。現在持っている能力の低下をできるだけ抑えることがやつとようです。

この施設の悩みのひとつが、利用者さんたちの高齢化です。利用者さんたちはこの施設以外では暮らしていきません。高齢と共に身体機能が低下すると、介護が困難になる一方です。同じ悩みを持つ施設は全国にあり、これからの大きな課題になることは間違いありません。

厳しい勤務でも明るい笑顔を絶やさず、利用者さんを懸命にサポートするスタッフの皆さんの姿には、心を打たれました。この日は利用者さん、スタッフの皆さんと一緒に、施設の食事をごちそうしていただきました。

共に暮らすことができない親子を支援する世界的施設

次は福岡に移動し「SOS子どもの村 JAPAN 福岡」を訪れました。世界規模のネットワークで展開されている「SOS子どもの村」は、実の親からの保護や養育を受けられない子どもたちを愛情のある家庭環境で養育するための活動、実の家族と暮らせなくなる危機にある子どもと、その家族のための活動などを行っています。

現在日本には、病気や貧困、虐待、育児放棄などを理由に、実の親のもとで暮らすことができない子どもたちが四万六千

人います。そうした子どもたちのケアや養育環境の保障が大きな社会的課題です。

日本の場合、家族と暮らせない子どもたちの85%が、乳児院や児童養護施設などで育てられています。これは家庭での養護に重きを置く欧米などと大きく異なります。欧米の場合は親と暮らせない子どもに対して里親制度でケアするのが主流で、国により異なりますが、そうした子どもたちの概ね50〜70%が里親の元で暮らしています。ところが日本はわずか12%で、国連から改善の勧告が出されています。こうした世界の流れを受け、厚労省は2011年から「実の親と暮らせない子どもは里親委託を優先して検討するべきである」という「里親委託優先の原則」を打ち出しました。しかし、まだまだ体制は充分ではありません。

日本には「SOS子どもの村」が、今回訪問した福岡、そして仙台の2カ所にあります。福岡は2010年の開設。「世界で一番小さな村」とのことですが、敷地内にはセンターハウスのほか、実の親と暮らせない子どもたちと一時的な里親を務める「育親」が共に暮ら



左/田園風景のなかにある「SOS子どもの村 JAPAN 福岡」。右/メイン棟内部は保育所のような雰囲気。

すための家が5棟建てられています。子どもたちはこの家で暮らしながら、実の親、あるいは里親との新しい暮らしを待っているわけですが、現在15名の子どもたちがいるそうです。当財団の視察研修は高齢者や障がい者関連の施設が多いのですが、格差が広がる現在、親と暮らせない子どもたちの問題も相当深刻なレベルにあることを垣間見ることができました。

ご近所の助け合いから生まれた理想の宅老所

最後におじゃましたのは、同じ福岡にある「第2宅老所よりあい」です。社会福祉法人「福岡ひかり福祉会」が運営する施設のひとつなのですが、この施設の始まりは、ある独居高齢者が認知症となり、行き場を失ったため、近隣の

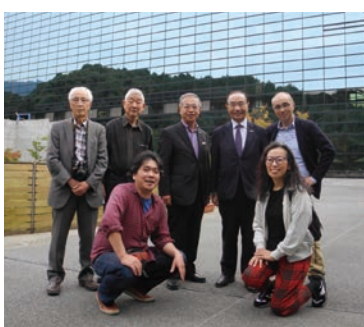
人たちが協力してその方の居場所を作ったことでした。いつの間にかその場所は、近隣の高齢者が集まるようになってきたことから、立ち上げた人たちと「福岡ひかり福祉会」が協力し、現在3カ所の宅老所を運営しています。

発足の経緯はユニークですが、地域住民のつながりによって生まれたこの施設こそ、理想的な福祉の姿を見ることができました。運営は大変ですが、雑誌を出版・販売したり、施設でコンサートを開催してそれらの売り上げを運営資金に回すなど、様々な工夫を行っています。

なお、今回紹介した視察の詳細については、2月末発行予定の報告書で紹介させていただきます。ご希望の方は当財団までお申し込みください。



住宅街にある「第2宅老所よりあい」は古民家のたたずまい。



九州国立博物館（太宰府市）にて。

公益財団法人

「ノーマライゼーション住宅財団」の活動を紹介します

小誌『WITH LIFE』を発行している当財団は平成元年設立、公益に資する法人として、「ノーマライゼーションの理念に基づき、高齢者や障がい者にとっても安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上を通して、すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与する」ことを[目的]に、主なものとして下記の[事業]を行っています。

当財団では、活動理念・趣旨にご賛同いただける方へ、「賛助会員」の入会をお願いしております。詳しくは当財団(2頁参照)へお問い合わせください。

当財団の詳細につきましては、ホームページ (<http://www.normalize.or.jp/>) をご覧ください。

① 助成金により福祉住宅の建築を支援しています

高齢者や障がい者にとっても安全で快適に暮らせる住宅、また将来身体機能が低下しても安心して生活できる住宅として新築したりリフォームした建築主、およびグループホームや高齢者向けアパートなどの福祉小規模集合住宅の建築主から応募を受け、審査のうえ今後の参考に資する施工物件に対して助成金を給付しております。

年一回公募、助成金は一件あたり五〜三〇万円(総額三百万円以内)。審査は大学教授、一級建築士、プロダクトデザイナーなど、建築・福祉に造詣が深い有識者により行われます。本年度も下欄要項の通り募集いたします。どうぞご応募ください。

② 福祉住宅建築助成実例集『ふれあい』を発行しています

前項の助成対象物件の中から、さらに選考された事例を、写真や図面つきで紹介しています。専門家のアドバイスや、工夫した点、実際暮らしてみた感想なども綴られています。

地方自治体および社会福祉協議会など関係諸機関に配布されており、福祉住宅として新築・リフォームを考えている方や関心のある方にお役立っていただいております。

平成二十七年八月に通巻二十六号発行。当財団でバックナンバーを閲覧することができます。

暮らしやすい住まいづくりに
助成金給付!

平成28年 福祉住宅建築助成 応募要項

応募期間 平成28年5月1日～平成28年11月30日

対象 福祉住宅や福祉小規模集合住宅として新築またはリフォームした建築主

助成金 一件あたり5万円から最高30万円までただし、総額300万円の範囲内

応募方法 設計士、施工会社、医療・介護関係者などのアドバイスを含め、福祉住宅として工夫・配慮した点などを当財団所定の申請書に記入し提出。(申請書は当財団ホームページからダウンロード)

審査 当財団委嘱の有識者による審査委員会にて選考

主催 公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

後援 北海道、社会福祉法人北海道社会福祉協議会、札幌市、社会福祉法人札幌市社会福祉協議会、北海道デザイン協議会

応募先 公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団
〒060-0042
札幌市中央区大通西16丁目2-3
ルーブル16 9階
TEL.011-613-7551
FAX.011-612-8431
URL <http://www.normalize.or.jp/>

ノーマライゼーション住宅財団

[目的]

ノーマライゼーションの理念に基づき
高齢者や障がい者が安全で安心して
快適に暮らせる住生活環境の
整備・向上を通して、すべての人が
生きがいをもって生活できる社会づくりと
社会福祉の増進に寄与

*ノーマライゼーションとは：
高齢者や障がい者も社会で共に暮らし、
共に生きることがノーマル(正常)である、
という考え方

[事業]

福祉住宅の建築に関する
助成及び情報提供事業

- 1 助成金による福祉住宅
建築支援
- 2 福祉住宅建築助成
実例集『ふれあい』発行



ノーマライゼーション理念の
普及啓発事業

- 3 広報誌
『WITH LIFE ~共に生きる』
発行
- 4 小中学生による「安全・快適
アイデア」コンテスト
- 5 福祉事情に関する情報収集
及び提供



[対象]

- 建築系・福祉系
教育研究機関
- 地方自治体
建築部門
- 福祉住宅
施工会社
- 福祉住宅
建築主
- 一般市民
- 福祉団体
- 社会福祉
協議会
- 地方自治体
福祉部門
- 小中学生
学校教員

社会福祉の増進に寄与
ノーマライゼーションの定着

③ 広報誌『WITH LIFE』共に
生きる』を発行しています

生涯、快適に暮らしたい」をテーマに、ノーマライゼーションの理念と実践を紹介する当財団の広報誌です。

ノーマライゼーションを実践されている方々の対談によるノーマライゼーション理念とその具体策の普及、また、関連事例、関連情報源、福祉住宅の実例などの役立つ情報を紹介しています。

原則年二回刊、地方自治体および社会福祉協議会など関係諸機関に配布されています。

平成二十八年四月、本号、通巻四十三号発行。当財団でバックナンバーを閲覧することができます。

④ 小中学生による「安全・快適アイデア」コンテストを実施しています

お年よりや障がいのある人が安心して快適に生活できる部屋づくりや、身近な道具・用具、また安全に外出を楽しめる環境づくりなど、様々な「安全・快適アイデア」を小中学生から絵と文字で表現してもらいます。

年一回、応募を受け、有識者の審査により選考された入賞作品は小誌『WITH LIFE』に掲載(本号14頁参照)、また、さつぽろ地下街オーロラコーナーにて展示(平成二十九年一月予定)いたします。ホームページにも発表しています。

■小中学生による「安全・快適アイデア」コンテスト応募要項

- 「応募資格」小・中学生の皆さん
- 「規格」画用紙(八つ切り)。画材は自由
- 「募集期間」平成二十八年六月二日～十月三十一日
- 「応募方法」一人一点。所定の応募票(当財団ホームページからダウンロード)に必要な事項を記入し、作品の裏に添付
- 「賞」最優秀賞一点、優秀賞三点、優良賞五点、佳作十点
- 「作品の送付・問い合わせ先」当財団へ(2頁参照)

⑤ 福祉事情に関する情報収集及び提供
をしています

福祉全般に関する情報収集を目的として、有識者や福祉関係者などに呼び掛け、各地の福祉施設や福祉事情などを視察し、『WITH LIFE』等でレポートを発表しています。

昨年十一月に実施した「九州福祉視察研修」(本号16頁参照)の報告集が発行されており、ご希望の方は当財団までご連絡ください。



生涯、快適に暮らしたい。